

# 平成21年度 普及活動のまとめ

## 活力ある北部の農業



「平群の小菊」地域団体商標取得支援



マコモタケ試食販売支援



天理市認定農業者研修会開催支援



信貴生駒山系鳥獣害防止対策協議会設立支援

奈良県北部農林振興事務所  
農林普及課・農業普及課

はじめに



一昨年の後半から続く世界同時不況による消費者の購買意欲の減退による農産物の価格低迷、金融市場から原油市場に資金が投入されたことなどによる重油高、中国やインドなどの新興国の需要拡大による生産資材の高騰など、農業は生産・販売両面で厳しい環境に置かれています。その他にも農業の担い手の減少・高齢化、農業所得の激減、耕作放棄地の増加など農業・農村を取り巻く環境には課題が山積しております。

国では「食料・農業・農村基本計画」について5年に一度の見直しが進められ、これまで農政が抱えていた問題と決別し、新たな発想で農政を転換し、農業・農村の早急な再生を図る施策体系を構築するとしています。その中で、施策対象の裾野を広げ意欲ある多様な農業者を対象とした戸別補償制度の導入、延べ作付面積の拡大(495万ha)による食糧自給率の引き上げ(10年後に50%)、農業・農村の6次産業化、「後始末より未然防止」を基本に食品の安全性向上と消費者の信頼確保(トレーサビリティ、GAP、HACCPの厳格化)の4つの視点が盛り込まれています。

本県におきましては、奈良県行財政運営プラン2010を策定し、農業分野において、チャレンジ品目・リーディング品目に支援を重点化した、1. マーケティング・コスト戦略に基づいた農業の振興、2. 意欲ある担い手の育成と新規就農者への支援、農業振興の基礎とも言える農業振興地域整備基本方針の見直しを始めとする、3. 農地の保全・有効活用に施策を集約し、農業・農村の活性化を図っているところです。

こうしたなか、北部地域では、管内市町、農業委員会、農業協同組合等の関係機関・団体と連携を図りながら日々普及活動を展開しております。

ここに、農林普及課並びに農業普及課における平成21年度普及活動の一端を冊子にとりまとめましたので、これからの地域営農や地域づくりに役立てていただければ幸いです。

今後とも、奈良県北部地域の農業振興と農村活性化のため、積極的に活動を展開して参りますので、なお一層のご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

平成22年3月

奈良県北部農林振興事務所  
所長 吉川 博行

# 目 次

はじめに

写真で見る普及活動

平成21年度普及指導活動基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

普及活動の成果

1) 担い手への支援

- ①担い手支援チームによる担い手への支援・・・・・・・・・・ 2～4
- ②青年農業者活動への支援(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ③青年農業者活動への支援(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ④農村女性能力向上研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

2) マーケティング戦略の実行

- ①小ギクのオリジナル品種の育成支援・・・・・・・・・・ 8
- ②小ギク栽培におけるオオタバコガ防除用ネットハウスの普及・・・・・・・・ 9
- ③資金需要からみた茶産地の動向と活性化支援・・・・・・・・ 10～11
- ④新規作物(マコモタケ)の導入支援・・・・・・・・・・・・ 12
- ⑤地域農産物のブランド力強化支援・・・・・・・・・・・・ 13

3) 農地の有効活用

- ①間近で観察できるカキせん定モデル園の設置・・・・・・・・ 14
- ②獣害対策の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15～16
- ③(調査研究)信貴生駒山系における鳥獣害の実態把握・・・・・・・・ 17～20

平成21年度 各種表彰受賞者一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

## 写真で見る普及活動



●女性グループ活動支援(ゆうゆう市)



●集落営農組織経営多角化支援  
(大豆加工研修)



●柿出荷品質向上支援



●水田等有効活用の促進  
(直はによる米粉用米栽培)



●柿春期管理講習会



●集落営農経理指導

## 写真で見る普及活動



●エコファーマー連絡会消費者交流会



●お米の食味試験



●小ギクの超簡易型ネット張り施工方法研修会



●小ギクの育種活動支援



●女性農業士経営交流会



●郡山生駒地区農業士会経営研修会

## 平成21年度普及指導活動の基本方針

「奈良県行財政運営プラン」の目標達成に向け、「協同農業普及事業の実施に関する方針」に基づき、市町村・農業協同組合・農業委員会などとの連携を密にしながら、地域の農業の課題に対応した普及活動を次の3課題を中心に推進する。

### 1) 担い手への支援

関係機関と情報を共有するとともに担い手に関する窓口を一元化し、農業経営に意欲をもつ農業者や法人を支援する。特に、認定農業者等の経営改善や新規就農者の育成を図るとともに、担い手の不足している地域においては、土地利用型作物の生産コスト低減と農地の面的な保全のために集落営農の組織化を支援する。

また、兼業農業者・女性・高齢者等の地域農業を支え、多様な担い手が活躍できる環境を整備するとともに食農教育に対する支援を推進するためあらゆる機会を利用して情報提供に努める。

### 2) マーケティング戦略の実行

新技術や新作目・新品種の導入、生産・出荷組織の強化等により大和茶、大和野菜等特産物の振興を図るとともに、消費者ニーズに対応した流通・販売の充実による地域農産物のブランド力を強化する。

また、地産地消による食と農の共生の推進と地域農業の活性化を図るため、その拠点としての農産物直売所のレベルアップを支援する。また、安全・安心で新鮮な地域農産物の供給のため、農薬の安全使用や生産履歴記帳の励行や、持続性の高い農業生産方式の導入を実践するエコファーマー制度のさらなる啓発と農業者に対する環境保全技術導入の支援を行うとともに、有機質資源の有効利用のため家畜排泄物等の利活用に向けた取り組みを支援する。

### 3) 農地の有効活用

中山間地域での農村活性化の阻害要因となっている野生鳥獣被害に対する対策を推進するとともに、過去から整備・蓄積されてきた水路、農道、ため池などの地域の農業生産資源の維持・活用を目的とする農地・水・環境保全向上対策の取り組み集落に対して支援する。また、地域の農業・農村に関する情報提供の充実を図ることにより、都市と農村との多様な交流促進及び農業教育に向けた取り組みを支援する。

あわせて優良農地を確保するため遊休農地の解消・活用に向けての取り組みに対し支援する。

## 1) 担い手への支援

### ①担い手支援チームによる担い手への支援

対象：認定農業者・新規就農希望者等

## 1. 概要とねらい

管内では認定農業者数が402名、平成20年度の新規就農者数が12名、40歳未満の農業後継者数が107名と、農業従事者の高齢化と担い手不足が進んでいる。新規就農者や意欲ある担い手を確保するため、まず関係機関の連携を強化し、支援体制を構築すると共に、県事業等を活用した新規参入を含む新規就農者確保のための支援を行ってきた。更に一人でも多くの意欲ある担い手の育成のために、その中心となる認定農業者の皆さんが抱える課題を整理し、支援策の検討を行った。

## 2. 活動内容と成果

### 1) 支援体制の整備

#### 1. 担い手支援チーム

奈良市、天理市、大和郡山市、生駒地域の4支援チームを設置し、担い手支援に関する情報共有や認定農業者巡回を進めてきた。

- ・担い手支援チーム構成  
市町農政担当課、農業委員会、農業協同組合、当事務所関係職員
- ・活動 担い手支援チーム打合せや作業部会16回

#### 2. 担い手ワンストップ窓口

農林(業)普及課に同窓口を設置し、技術や資金、農地など就農相談を行い、農業新規参入者支援事業への誘導や農業大学校入学支援を行ってきた。

- ・相談件数とその対応・・・本年度19名の相談があり、6名の方が新規参入者支援事業に取り組み、2名は農業大学校に入学予定。

### 2) 意欲ある担い手への支援

#### 1. 認定農業者巡回

6月より認定農業者の巡回を始め、経営改善計画の作成を支援しながら、様々な意見や要望を頂き、取りまとめを行った。<巡回実績 273/402>

#### 2. スキルアップ講座の開催

天理市認定農業者研修会

(2月23日 JAならけん二階堂支店)

テーマ「改正農地法について」

講師 奈良県農業会議次長 高岸豊氏

参加者 約20名

北和のつと(11月19日 いかるがホール)

テーマ

「6次産業化による農業活性化への挑戦」

講師 (株)相和果樹園 秋竹新吾氏

参加者 190名



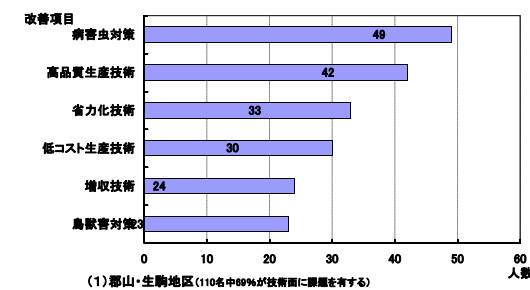
認定農業者研修会

### 3. 認定農業者の意見の取りまとめ

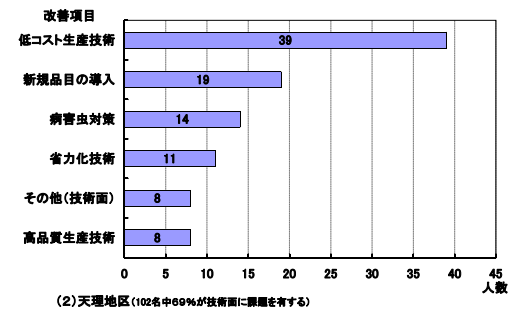
経営改善目標達成のための改善方向や関係機関に求める要望

- (1)技術面：約7割の方が何らかの課題を持っておられた。中でも高品質生産技術や病害虫対策、低コスト生産技術といった課題が特に多かった。
- (2)販売面：多くの方が販売面での改善を考えられており、共同出荷体制の強化や、如何に有利販売につなげるか、直売への取組等の意見があった。
- (3)経営労務管理面：多くの方が経営改善を考えられ、規模拡大を図ろうとされている方は、雇用の安定確保を上げられている。また、青色申告のための記帳指導や複式簿記記帳指導を求める方もおられた。
- (4)その他：優良農地の確保を考える方が30名以上おられ、産地として担い手の確保が必要と認識する方もあった。また、「6次産業化を目指す」「技術・事業情報の提供」「認定農業者のメリットを確保して欲しい」といった意見や要望があった。

認定農業者巡回から具体的な意見(技術面)



認定農業者からの聞き取り



以上のようにほとんどの方は何らかの技術改善を考えられ、多数の方が販売や経営改善を行いたいと思っていることから、今後の支援に役立てていきたい。

#### 4. 農業の担い手調査

管内41の生産者団体の方の協力を得ながら今後、当事務所の指導対象となる方の現状を把握するため、アンケートを実施してきた。

回収数/配付数 841/1481

### 3) 新規就農希望者への支援

農業新規参入者支援事業に取組み、担い手が不足する生産者団体などに産地として研修生の受入を呼びかけると共に、事業の中で農業経験のない方の体験場所として指導(女性)農業士の方に協力を得、現在管内で、10月から2名の方が産地実践研修を実施中。三月中旬から新たに3名の方が産地実践研修を開始している。



産地実践研修中の研修生

#### 農業体験研修

9名の指導農業士宅で実施

#### 産地実践研修

一次(夏) 斑鳩町イチゴ産地(1名)、奈良市イチゴ産地(1名)  
二次(冬) 平群町イチゴ産地(2名)、奈良市イチゴ産地(1名)

### 4) その他

新規就農定着促進事業への支援を行い、9名への事業導入支援を行った。

## 3. 今後の展開方向

### 1) 支援体制の強化

担い手支援チームでの情報共有と連携の効率化を図り、認定農業者の再認定に向けた経営改善支援を行う。

### 2) 意欲ある担い手(認定農業者)への支援

今年度、巡回できなかった認定農業者の方への訪問を継続すると共に、的確かつ迅速な情報提供に努める。

### 3) 新規就農者への支援

担い手ワンストップ窓口における相談活動を継続すると共に、新規参入希望者に対する就農計画作成支援を行いながら、農地の確保に向けて関係機関と連携を密にする。

## 4. 協力機関名

各市町、農農業委員会、農業協同組合、県農業会議、県農業振興公社他県関係機関

## 5. 関連事業名

意欲ある担い手確保育成事業  
農業新規参入者支援事業  
農業経営基盤強化促進対策事業  
農業士活動事業  
新規就農定着促進事業

### 1) 担い手への支援

## ②青年農業者活動への支援(1)

対象：奈良市4Hクラブ・天理市4Hクラブ

### 1. 概要とねらい

北部農林振興事務所農林普及課管内にある奈良市4Hクラブと天理市4Hクラブの交流・連携と両クラブ員の資質向上を図るため、先進地視察研修会を合同開催した。

### 2. 活動内容

視察日：

平成21年7月28日

内容：

①株式会社ナコス  
(三重県津市稲場町)



ブロッコリーを中心 話をする東村社長として育種、種苗販売

を行う会社である。社長である東村氏は、栽培指導にも力を注いでおり、栽培には土壌が最も重要と考えている。現在は品質・食味に重点を置いた育種を行っているが、今後は病気に強い品種・施肥管理の楽な品種についても育種を行っていく予定である。

②青木恒男氏圃場(三重県松阪市久保町)

土壌病害の軽減を目的として不耕起(根域が浅い)で少量多品目栽培に取り組んでいる。病虫害防除・雑草防除についても、天敵が常にいる環境をつくり、雑草を水管理に役立てるなどして、化学農薬などによる防除は最低限にしている。

直売所の出荷は、他の農家と異なる出荷時期・品種とするなどの工夫を行っている。また、数品種を同時に出荷し、売れ行きを見ることで消費者の動向もつかんでいる。



講習を受けるクラブ員

### 3. 成果

種苗販売会社の現在の育種動向、不耕起による特徴的な少量多品目栽培、直売所の活用方法などを学ぶことができた。

また、2クラブ員間の交流も図られた。



不耕起で栽培しているナス

### 4. 今後の展開方向

次年度も同様の合同研修会を実施し、近隣クラブとしてさらなる交流・連携を進めていく。

### 5. 協力機関名

JAならけん

1) 担い手への支援

## ③青年農業者活動への支援（2）

対象：生駒・郡山地区4Hクラブ連絡協議会

### 1. 概要とねらい

生駒・郡山地区4Hクラブ連絡協議会のクラブ員は、野菜や花、果樹など様々なものを栽培している。研修会などで自分の栽培している作目以外の時には、関心が低くなる傾向がある。

そこで多くのクラブ員が関心を持ち、積極的に参加できるようにほぼ全員が栽培しているお米について研修会を行った。

### 2. 活動内容

1) JAならけんの近赤外線分析機による食味値の測定。

実施日：11/17

サンプル数：7

品種：ヒノヒカリ

2) 官能試験による食味の評価。

実施日：11/18

評価者：15名

サンプル数：7

品種：ヒノヒカリ



### 3. 成果

官能試験の後、分析機による食味分析結果についての説明をし、成分毎にどのように食味に影響するのか、また肥培管理や保存方法がどのようにお米に影響するのかを説明した。今回の研修により肥培管理や保存方法が食味に与える影響についての関心が高まった。

また、自らが生産したお米を持ち寄り、同じ釜で炊いたお米を食べることによって交流を図った。

### 4. 今後の展開方向

1) 食味分析結果と栽培履歴から、今後の良食味米生産に繋げる。

2) このような活動を通じ、クラブ員間の交流を図り組織を活性化させる。

### 5. 協力機関名

JAならけん、農業総合センター

1) 担い手への支援

## ④農村女性能力向上研修会

対象：農業普及課管内農村女性

### 1. 概要とねらい

農業の維持・発展のためには、女性が対等のパートナーとして男性とともに参画していくことができ、また、その能力を活かしていきいきと活躍できる農村の形成が重要である。そこで、そのための環境整備を総合的に行うために、起業活動に関する実践的な知識の習得および活用の為の研修を開催する。

### 2. 活動内容

1) 豆腐づくり講習会

講師：米澤優次氏（豆腐製造業・集落営農「アグリ大泉」所属）

開催日：平成21年12月4日

対象：管内農村女性 15名

### 3. 成果

地域のリーダーを対象に研修会を行った。今回習得した技術をそれぞれの地域へ持ち帰って広め、さらに新しい加工品の開発も手がけていきたいという意識がみられた。また、農産物の栽培や加工について活発な情報交換が行われた。



### 4. 今後の展開方向

1) 加工技術・販売許可に関する情報提供

### 5. 協力機関名

JAならけん郡山・生駒地区女性部

### 6. 関連事業名

女性活動促進事業

## 2) マーケティング戦略の実行

### ①小ギクのオリジナル品種の育成支援

対象：西和花卉部会青年部

#### 1. 概要とねらい

夏秋期生産本数日本一の「平群の小菊」産地のさらなるブランド強化と、青年農業者組織活動の強化を図るため、西和花卉部会青年部員に対して小ギクのオリジナル品種の育成活動支援を行った。

#### 2. 活動内容

##### 1) 交配育種による新品種育成支援

本活動は平成18年度から始まり、毎年継続して交配を行っている。今年度は初年度交配したものの3次選抜を行い、共選品種への指定について検討を行った。

##### 2) 育種活動の定着促進支援

育種活動が青年部の取り組みとして定着するよう重点支援を行った。また、西和花卉部会員に対し、講習会等で育種活動の重要性に関する啓発を行った。

#### 3. 成果

1) 来年度から共選指定品種として1品種(9月咲き)が営利販売されることとなった。また、H19年以降に交配したものにおいても有望品種が選抜された。

2) 育種活動が青年部の主体的な取り組みとして定着するようになった。



交配作業



共選指定品種第1号「月あかり」

#### 4. 今後の展開方向

交配しにくい8月咲き以前の育種技術の修得に向けた支援を行い、さらなる有利販売につなげる。また、現在産地が保有している品種の整理や見直しを行い、明確な育種目標を設定した取り組みを推進する。

#### 5. 協力機関名

J Aならけん椿井経済センター、県農業総合センター

## 2) マーケティング戦略の実行

### ②小ギク栽培におけるオオタバコガ防除用ネットハウスの普及

対象：西和花卉部会

#### 1. 概要とねらい

平群町の小ギク産地において、深刻化している難防除害虫オオタバコガによる食害対策として、県農業総合センターが開発した「超簡易型ネットハウス\*」等の防虫ネット被覆施設の一層の普及を推進し、被害の軽減による生産安定や薬剤散布回数の削減による防除作業の省力化、環境への負荷低減を図る。

(\*超簡易型ネットハウス：生産者自らが比較的簡単に設置でき、10a当たりの設置費用が約30万円と低コストなヤカ類防除用の防虫ネット被覆施設)

#### 2. 活動内容

1) 補助事業の導入に係る助言・指導(5団体、27名分)

2) 超簡易型ネットハウスの施工方法研修会の開催等による施工技術修得指導

3) 超簡易型ネットハウスの委託施工体制の整備

#### 3. 成果

1) 補助事業の円滑な遂行等により、ネットハウスの導入面積が大幅に増加した。

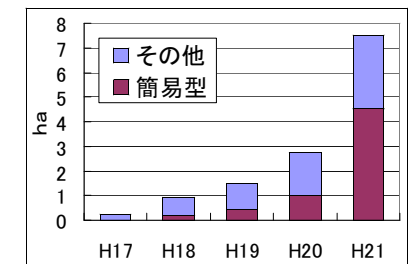
(H21年度新規導入実績：超簡易型3.5ha・41棟、その他1.0ha・19棟)

2) 施工方法の指導により、新たに9名が施工技術を修得した。

3) J Aとの連携により施工を業者委託できる体制を整備し、16名が利用した。



施工方法研修会の様子



ネットハウス導入面積の推移

#### 4. 今後の展開方向

産地へのネットハウスのさらなる普及を図るとともに、自己施工生産者(委託施工しない生産者)に対する支援体制を整備する。

#### 5. 協力機関名

J Aならけん郡山生駒地区統括斑鳩支店、J Aならけん椿井経済センター  
平群町、県農業総合センター、県病害虫防除所

#### 6. 関連事業名

野菜・花き産地高度化緊急支援事業

2) マーケティング戦略の実行

③資金需要からみた茶産地の動向と活性化支援

対象：管内茶生産農家

1. 概要とねらい

近年、茶の販売単価低迷は著しく、生産者の経営が非常に厳しい状況にある。そのような中で、個別経営体への支援と茶産地振興をはかる方策のひとつであると考えられるてん茶加工経営開始に対する経営シミュレーションを行ったので、紹介する。

2. 活動内容

1) シミュレーションの前提

経営面積 自家摘採面積 400a 加工作業受託面積 200a~400a変動  
 加工機械処理能力 毎時平均100kg(生葉)  
 加工機械処理時間 一日22時間  
 労働人数 自家労力 2名 雇用労力 4名

3. 成果

1) シミュレーションの結果は次ページのとおり

2) 結果の概要

①てん茶単価は将来にわたっても低減することが予想され、加工受託400aを含む経営面積800aとした場合、一番茶単価1800円、二番茶単価800円程度までなら下落しても利益を出すことができる。逆に言えば、それ以上の単価下落に見舞われると、現状以上のコスト削減の努力が必要となる。

②てん茶単価の下落を著しく大きくは見ないと言う前提で、全量自家摘採では労力的にも経営的にも厳しく、加工作業受託による加工料金は経営の大きな柱となる。

③機械の加工能力が基準であるが、それより多くの生葉を製造ラインに流すことは可能である。しかしそのために質の低下が顕著になり、単価の下落を助長することが考えられる。したがって反収をある程度上げると同時に、質を著しく落とさないポイントを探ることが、経営にとって最重要課題となる。

4. 今後の展開方向

1) 新規に導入する場合は単価の動向を見極めた上で、製造量を決定することが必要である。

5. 協力機関名

奈良県農協、日本政策金融公庫

		せん茶経営	てん茶自家摘採加工	同左 単価低減	加工受託実施	
農業粗収入		16,894,000	32,760,000	22,940,000	23,740,000	
一番茶 (煎茶)	経営規模	400	0	0	0	
	生産量	5,660	0	0	0	荒茶140kg/10a
	売上高	9,622,000	0	0	0	¥1700/kg
二番茶 (煎茶)	経営規模	400	0	0	0	
	生産量	4,920	0	0	0	荒茶123kg/10a
	売上高	3,936,000	0	0	0	¥800/kg
番茶他 (一般茶)	経営規模	400	0	0	0	
	生産量	11,120	0	0	0	荒茶300kg/10a
	売上高	3,336,000	0	0	0	¥300/kg
一番茶 (てん茶)	経営規模	0	800	800	400	
	生産量	0	9,600	9,600	4,800	荒茶120kg/10a
	売上高	0	24,960,000	17,280,000	8,640,000	2600 → 1800/kg
二番茶 (てん茶)	経営規模	0	640	640	320	面積*4/5
	生産量	0	4,000	6,400	3,200	荒茶100kg/10a
	売上高	0	7,200,000	5,120,000	2,560,000	1800 → 800/kg
秋茶 (てん茶)	経営規模	0	100	100	100	
	生産量	0	1,000	1,000	1,000	荒茶100kg/10a
	売上高	0	600,000	540,000	540,000	600 → 540/kg
一番茶 (てん茶加工 受託)	経営規模	0	0	0	400	
	生産量	0	0	0	4,800	荒茶120kg/10a
	売上高	0	0	0	5,760,000	加工手数料 1200/kg
二番茶 (てん茶加工 受託)	経営規模	0	0	0	480	
	生産量	0	0	0	4,800	荒茶100kg/10a
	売上高	0	0	0	3,840,000	加工手数料 800/kg
秋茶 (てん茶加工 受託)	経営規模	0	0	0	400	
	生産量	0	0	0	4,000	荒茶100kg/10a
	売上高	0	0	0	2,400,000	加工手数料 600/kg
農業経営費		15,182,561	20,361,589	20,366,554	20,717,585	
原材料費		7,402,199	6,500,000	6,500,000	6,500,000	
施設・機械費		5,607,764	10,040,798	10,040,798	10,380,244	減価償却費の4%を 修繕費として計上
うち減価償却費		4,392,546	8,486,135	8,486,135	8,486,135	
出荷販売経費		23,521	30,206	35,171	46,756	生産量比例
雇用労費		645,267	2,160,000	2,160,000	2,160,000	一日四人 一人9 千円 60日
支払利息		14,791	74,700	74,700	74,700	
支払地代		305,000	400,000	400,000	400,000	¥20000/10a
その他		1,184,019	1,155,885	1,155,885	1,155,885	
農業所得		1,711,439	12,398,411	2,573,446	3,022,415	

農業所得 1,711,439 12,398,411 2,573,446 3,022,415



## 2) マーケティング戦略の実行

### ④新規作物（マコモタケ）の導入支援

対象：奈良市田原地区、天理市和爾地区

#### 1. 概要とねらい

奈良市田原地区及び天理市和爾地区は、ほ場整備事業により、ほ場の大区画化が行われている。生産調整のため、麦・大豆などの生産を行う場合、粘土質のほ場では、排水対策に手間がかかるうえ、湿害が発生しやすく、収量が安定しない。そこで、水田でも栽培可能な作物を模索し、マコモタケの導入を検討した。

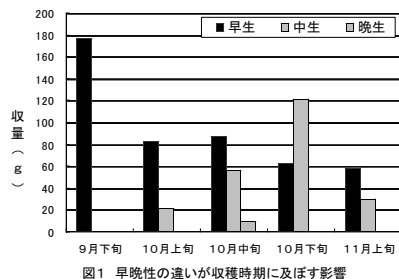


#### 2. 活動内容

- 1) 奈良市田原地区で約7a、天理市和爾地区で約12aで試作し、直売所を中心に販売を行った。また、Aコープ樺本東店、ならコープ押熊店で試食販売を行った。
- 2) 昨年の栽培実績から、早晩性によりいくつかの系統があることが示唆された。そこで、昨年の早晩性から3系統を選び、収穫時期等を比較した。

#### 3. 成果

- 1) 日照条件や雑草の問題で、部分的に生育不良となったが、全体的には順調な生育であった。田原地区では、収穫後期に一部イノシシの被害を受けた。
- 2) 直売所で試食販売では、「どこを食べるの?」「どうやって食べるの?」と、消費者から興味を示してもらえた。食べ方のパンフレットなどを付けることで、購買意欲が格段に上がり、売り切れとなった。
- 3) 収穫のピークは、早生で9月下旬、中生で10月下旬であった。晩生は、ほとんど収穫できなかった。早生は、色も白く、繊維も緻密で、黒穂菌の発生も少なく、最も品質がよかった。中生は、表面が緑になりやすく、10月中旬には若く収穫しても、黒穂菌の発生が認められた。晩生は昨年収穫できなかった株で、本年もほとんど収穫できなかったため、除外する必要があることが分かった。



#### 4. 今後の展開方向

販売ルートの検討、栽培技術の検討、優良系統の選抜など

#### 5. 協力機関名

奈良市農林課、天理市農林課、JAならけん、田原土地改良区、和爾営農組合

#### 6. 関連事業名

担い手育成土地利用調整事業

## 2) マーケティング戦略の実行

### ⑤地域農産物のブランド力強化支援

対象：(株)農業公園信貴山のどか村

#### 1. 概要とねらい

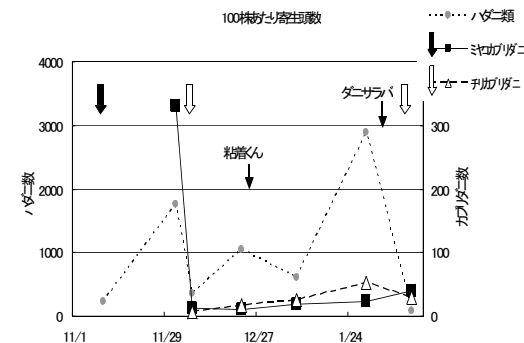
(株)農業公園信貴山のどか村は集落営農型の観光農園として運営されている。イチゴ狩りにおいて高設栽培を導入したり、農業総合センターで育成された品種を導入してより広いニーズに応えるよう取り組んでいる。また、味覚狩りを始め、食の安全に対しては高い意識を持って行っている。技術面、販売面等で助言を行うことによって集落外からの若い従業員の資質向上を図るとともに、経営の安定とブランド力強化に向けた支援を行う。

#### 2. 活動内容

- 1) イチゴ新品種“古都華”を試験栽培するにあたり、品種特性を踏まえた技術的支援、販売に対する助言を行った。
- 2) イチゴ栽培では化学農薬低減のために天敵導入試験を実施した。

#### 3. 成果

- 1) 果実表面が傷みやすい“古都華”は、30%程度あった廃棄率を玉出しの実施により5%以下とした。“古都華”を平並べとし高価なイメージで販売するによりイチゴ全体の売上が上がった。
- 2) 定植苗によるハダニ類の持ち込みがあったため、天敵の活動が鈍くなる厳寒期等ではハダニ類の寄生数の増加は見られた。しかし、天敵の定着が確認され、適期に化学農薬を併用することによってハダニの密度を長期間にわたって抑えることができた。



#### 4. 今後の展開方向

- 1) 顧客満足度アップのために、各品目における優良品種の情報提供。
- 2) 天敵放飼の時期を従業員自らが判断できるよう支援する必要がある。

#### 5. 協力機関名

農業総合センター普及技術課、JAならけん

#### 6. 関連事業名

有機野菜等振興事業

### 3) 農地の有効活用

## ①間近で観察できるカキせん定モデル園の設置

対象：天理市万千生産者

### 1. 概要とねらい

天理市は、刀根早生柿発祥の地であり、山の辺の道周辺の山麓沿いを中心とした渋柿の産地であるが、この土地独特のせん定方法による密植園が多いため、作業効率が悪く、高品質果実生産を阻む要因ともなっている。毎年、産地の中心地でせん定講習会を行い啓発を行っているが、休日開催に変更しているものの、高齢化等より参加者が近隣の生産者に固定化してきている。



せん定前のカキ樹

そこで、産地の各地区にせん定モデル園を設置し、各地区の生産者への啓発効果を高め、樹形改造による作業効率の改善と高品質果実生産を実践してもらうことで、継続してカキ生産を行える環境を整え、高齢化や市況の低迷等による放任園化を未然に防止することがねらいである。

### 2. 活動内容

- 1) 生産者組織（天理市果樹園芸組合）へ働きかけ、役員会を通じモデル園設置地区及びモデル園提供者を選定した。
- 2) 果樹振興センター及び北部農林振興事務所職員によるモデル園のせん定を実施し、各地区の生産者に見学してもらった。

### 3. 成果

- 1) 天理市内4地区（岩屋、竹之内、菅生、柳本）にモデル園を設置することが出来た。
- 2) 4地区でせん定実習を行うことで、毎年行っていたせん定講習会に参加していなかった生産者も見学を訪れ、より多くの人に作業効率が高く高品質化が図られるせん定方法を啓発することが出来た。



せん定実習風景

### 4. 今後の展開方向

- 1) 1回のせん定だけでは、理想的な園にならないことから、継続的にモデル園の管理を行い、啓発を行っていく。
- 2) また、複合経営等により、摘らいを実施していない地区もあることから、モデル園で摘らい効果を見てもらい、実践に移してもらえるよう啓発を行っていく。

### 5. 協力機関名

- ・天理市果樹園芸組合
- ・JAならけん天理・山辺地区果樹部会

### 3) 農地の有効活用

## ②獣害対策の支援

対象：奈良市田原地区

### 1. 概要とねらい

奈良市田原地区では、担い手育成型県営ほ場整備事業により区画整理が行われている。中山間地域である田原地区では近年、イノシシやシカ、一部サルなどによる農作物被害が問題となっており、区画整理されたほ場では電気柵による対策が行われている。

しかし、電気柵の設置は行われているが、効果の期待できない柵も多く見られることから、設置状況調査の実施を行った。

### 2. 活動内容

#### 1) 電気柵の調査

奈良市田原地区で導入されている電気柵（平成21年現在、延長84.3km）のうち、約3分の1（約30km）について、問題点や良い事例、被害状況などを図面に記入及び写真の撮影を実施した。

調査後、問題点をまとめ、「不通電」「隙間」「跳び込み」「漏電」「石などのひっくり返し」「ガイシの取り付け反対」「その他」に分けてまとめを行った。

### 3. 成果

#### 1) 電気柵の調査

今回の調査で、問題力所は約690か所で問題点は右図の通りである。これは約40mに1か所、イノシシが田畑に侵入出来る場所があるということであり、地区全体を電気線で囲っているため、全体を効果的に設置されている地区はなく、どの地区でもイノシシなどの被害が起きてもおかしくない結果となった。

問題点（約690か所中）	か所数
隙間による侵入	319
コンクリートやアスファルトなど電気を通さない地面で不通電	169
ガイシの取付が反対	143
電気線上部から跳び込み	81
草など電気線に触れ漏電	36
石などのひっくり返し	25
その他	12

特に問題が多かったのは、地面と下部電気線との隙間で、中には地面から50cm以上も隙間が空いている力所があった。次に問題なのは、電気を通しにくいコンクリートやアスファルトなどの上に電気線を張っていることであり、電圧が低く、イノシシの侵入防止に効果がない。また、ガイシの取付がほ場の内側に取り付けられている問題も多くあった。イノシシは横の電気線よりも縦の支柱を先に鼻で押すため、支柱よりも内側に電気線があると、押し倒されて漏電、そして侵入されてしまうため、ガイシは必ず外側に付けなければならない。

他にも跳び込まれたり、既に漏電していたり、多くの問題点が見つかった。

### 【問題点の事例】



隙間による侵入



電気を通さない地面で不通電



ガイシの取付が反対



電気線上部から跳び込み



草など電気線に触れ漏電



石などのひっくり返し

## 4. 今後の展開方向

1) 今回調査結果を田原土地改良区に返し、集落ぐるみでの獣害対策を進めていく。

## 5. 協力機関名

田原土地改良区

### 3) 農地の有効活用

## ③ (調査研究) 信貴生駒山系における鳥獣害の実態把握

調査対象：生駒市、平群町、三郷町

### 1. 概要とねらい

近年、生駒信貴山系において野生獣による農作物被害が拡大し、その対策が求められている。そこで、同地域で特に問題となっているイノシシによる被害の実態等を調査し、今後の対策に役立てる。

### 2. 活動内容

- 1) 農業者へのアンケート調査
  - ・調査対象：生駒市、平群町、三郷町の被害発生集落等
  - ・調査項目：①被害の実態
    - ②イノシシ・アライグマの目撃状況
    - ③対策の取組状況
- 2) 現地調査
  - ・イノシシの発生状況や防除対策実施状況等

### 3. 成果

1) 農業者へのアンケート調査  
被害発生集落等への全戸アンケート調査を実施し、被害の実態や取組状況等を把握した。

	調査集落数	配布戸数	回収戸数	回収率	調査対象
生駒市	28	1,269	671	52.9	全農家組合
平群町	8	513	300	58.5	イノシシ害発生集落
三郷町	3	27	22	81.5	イノシシ害発生集落
合計	39	1,809	993	54.9	

#### ◆調査結果(抜粋)

##### ①被害の実態

##### ◇被害面積・被害金額等

	被害面積 (ha)	対策実施 面積 (ha)	被害金額* (千円)	一昨年以前に 被害有り**(%)	水路・道路等の掘 起し有り** (%)
生駒市	0.98	3.72	3,560	17.1	18.6
平群町	12.27	44.54	5,200	76.5	77.8
三郷町	4.51	回答なし	2,338	54.5	63.6
合計	17.76	48.26	11,098	40.4	42.4

\*被害金額は品目ごとの被害面積から算出

\*\*本設問回答者中の割合

被害は平群町が最も多く、回答者の8割近くが被害を受けている。

◇品目ごとの被害面積と対策実施面積（3市町計）

品目	被害面積(ha)	対策実施面積(ha)	被害時期
キク*	4.39	17.61	周年(夏秋期に増加)
水稲	4.12	18.25	8～10月に多い
野菜	4.07	3.19	周年
うちサツマイモ	1.78	0.97	8～9月に多い
果樹	3.34	7.34	
うちブドウ	1.47	6.44	周年(アライグマ害)
うちクリ	1.33	0.7	
花木*	0.68	1.41	周年
タケノコ	0.53	0.26	3～5月に多い
その他	0.65	0.22	
合計	17.76	48.26	

\*キクや花木は畦崩しや掘り起こし被害がほとんどである  
被害品目は多岐にわたっており、年間を通じて被害が発生している。

②イノシシ・アライグマの目撃状況

◇イノシシの目撃

	回答数(戸)	あり(%)	なし(%)	「あり」の戸数(戸)
生駒市	589	10.4	89.6	61
平群町	284	77.8	22.2	221
三郷町	22	59.1	40.9	13

多くの人が目撃しており、平群町が最も多い。

◇イノシシ被害を初めて目撃した時期（3市町計）

	1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	6年前	7年前	8年前	9年前	10年前	11年以上前
回答数(戸)	4	14	30	20	62	38	29	19	2	79	32
割合(%)	1.2	4.3	9.1	6.1	18.8	11.6	8.8	5.8	0.6	24.0	9.7

約3分の1の人が10年以上前から、約8割の人が5年前から被害を目撃している。

◇イノシシ目撃時の群の数（3市町計）

	1頭	2～3頭	4～6頭	7～9頭	10頭以上
回答数(戸)	75	143	63	12	6
割合(%)	25.1	47.8	21.1	4.0	2.0

複数頭数の目撃が多い。

◇アライグマの目撃

	回答数(戸)	あり(%)	なし(%)	「あり」の戸数(戸)
生駒市	452	12.4	87.6	56
平群町	256	31.2	68.8	80
三郷町	22	9.1	90.9	2

多くの人が目撃しており、平群町が最も多い。

③対策の取組状況

◇防除方法

方法	ネット	トン柵	電気柵	ワイヤーメッシュ柵	ネット	光	音	臭い	わな・檻	その他
生駒市	18	49	4	31	15	5	12	5	2	0
平群町	109	72	95	50	33	31	19	21	24	8
三郷町	4	5	3	2	2	0	0	1	0	1
合計	131	126	102	83	50	36	31	27	26	9

十分な効果が期待できない方法や、全く効果がない方法も多く、改善の余地がある。

◇対策実施後の被害

	被害なし(%)	軽減(%)	効果なし(%)	回答数(戸)
生駒市	15.8	56.1	28.1	57
平群町	11.3	54.6	34.0	194
三郷町	9.1	27.3	63.6	11
全体	12.2	53.8	34.0	262

約3分の2が一定の効果があつたと回答している一方、効果なしの回答が約3分の1あつたが、防除方法や防護柵の設置方法に問題があるものと思われる。

◇生息環境管理

	放任竹林有り	所有者不明果樹有り	耕作放棄地有り	お供えものの放置有り	農作物残渣の放置有り
生駒市	50.2	4.4	58.2	13.5	4.6
平群町	64.6	11.3	81.1	27.0	15.7
三郷町	72.7	9.1	77.3	18.2	9.1
全体	58.0	7.3	68.5	18.8	9.3

放任竹林や耕作放棄地が多く、餌場や住みかになっているものと思われる。

2) 現地調査

被害発生地区を巡回し、イノシシの発生状況や農作物の被害状況、防除対策の実施状況等に関する実態把握を行った。また、地区住民に対し防除対策の助言・指導を行った。

◇調査・巡回地区

- ・平群町：鳴川、福貴畑、久安寺
- ・三郷町：信貴南畑、城山台

◇調査結果

- ・被害発生集落周辺の山の傾斜は比較的なだらかなで、餌となる広葉樹や竹林も多くイノシシが生息しやすい環境にある。
- ・栽培圃場に隣接した耕作放棄地や山林にイノシシの足跡や又タ場、獣道が多数あり、圃場のすぐ近くで生息する畑依存の個体が多いものと思われる。
- ・掘り起こしや、崩された畦・法面が多数見られた。

- ・放棄竹林や放任果樹、農作物残渣の放置なども見受けられ、餌場価値を高めている場所も多く見られた。
- ・設置方法の誤りにより、十分な効果が期待できない防護柵が多く見受けられた。また、光等全く効果が期待できない防除方法も見受けられた。
- ・冬期巡回時に笹の地下茎の掘り起こしや雑草の食痕も見られ、これらが冬場の貴重な餌源のひとつになっていると思われる。
- ・生産者ごとの自衛策にとどまっているため、十分な防除効果が得られていないものと思われる。
- ・日常の管理や捕獲獣の搬出が困難な場所に設置された捕獲檻もあり、設置場所の再検討が必要であると思われる。
- ・行動範囲が拡大し、住宅地のすぐ近くまで出没している形跡がある。



圃場すぐ近くの又タ場



崩壊したキク圃場の法面



掘り起こされた笹の地下茎



放棄されたハクサイの残渣

#### 4. 今後の展開方向

今年度、生駒市、平群町、三郷町と協議を重ね、3市町と関係機関による広域協議会（信貴生駒山系鳥獣被害防止対策協議会）を立ち上げ、本調査結果を踏まえて被害防止対策の検討を行ってきた。次年度、広域協議会が核となって農業者への啓発活動やモデル集落への重点支援、効果的な捕獲方法の実証、捕獲や防除に関する人材育成等を行い、住民自らが地域ぐるみで主体的に防除できる体制を整備することで被害の軽減を図ってゆく。

#### 5. 協力機関名

生駒市産業振興課、平群町経済建設課、三郷町建設経済課

### 平成21年度 各種表彰受賞者一覧表

賞名	主催団体	表彰事業及び品評会名	受賞者 (敬称略・順不同)	市町名
奈良県農業賞 (個人の部)	奈良県	—	米田博英・日出子	平群町
(団体の部)	奈良県	—	(農)南檜垣堂農組	天理市
(団体の部)	奈良県	—	安堵町農業者リーダー会議	安堵町
—	(財)農業振興会館	農業振興功績者表彰	稲葉車瀬梨部会	斑鳩町
農林水産大臣賞	奈良県農業協同組合	奈良県いちご立毛品評会	岩井 寛	奈良市
農林水産省生産局長賞	同上	同上	竹村 一美	奈良市
近畿農政局長賞	同上	同上	谷野 隆昭	大和郡山市
同上	同上	奈良県イチゴ果実品評会	今西 高弘	大和郡山市
農林水産大臣賞	同上	奈良県夏秋なす立毛品評会	木村 幸宏	天理市
近畿農政局長賞	同上	同上	家鋪 長光	奈良市
農林水産大臣賞	(社)奈良県茶業会議所	奈良県茶品評会	久保田清徳	奈良市
農林水産大臣賞	奈良県茶生産青年協議会	奈良県茶園品評会	筒井 哲彦	奈良市
近畿農政局長賞	同上	同上	奥中 直樹	奈良市
農林水産大臣賞	奈良県農業協同組合	花き植木立毛(植木)品評会	三橋 正和	大和郡山市
農林水産大臣賞	日本ばら切花協会	日本ばら切花品評会	藤枝 仁	平群町
農林水産省生産局長賞	奈良県花き植木農業協同組合	春日大社・県切花品評会	向井 正治	平群町
農林水産大臣賞	奈良県農業推進協議会 大神神社豊年講	農林産物品評会	桐山 嘉夫	奈良市
奨励賞	(社)農産漁村女性・生活活動支援協会 全県農業協同組合中央会	農産漁村いきいきシニア活動表彰	西畑町棚田を守る会	生駒市

全国および県規模の表彰事業における主な賞の受賞者について記載

## 平成21年度普及活動のまとめ 活力ある北部の農業

平成22年3月発行

### 奈良県北部農林振興事務所

農林普及課 〒632-0004 奈良県天理市櫛本町2460  
Tel.0743-65-1315

農業普及課 〒639-1123 奈良県大和郡山市筒井町600-3  
Tel.0743-56-1600



天理市柳本幼稚園・小学校稲刈り体験